

酪農場で蹄病の改善指導を行いました

蹄病が多発している中丹管内の酪農場に対し、繁殖成績の向上と乳量の増加を目的とした蹄病対策指導を行っています。

当該農場では細菌による趾皮膚炎や蹄と蹄の間が腫れる趾間過形成がまん延しており、10月13日から3回にわたり、削蹄手技や治療方法について指導を行いました。

畜主からは「蹄の痛みが低減したことで歩様が安定し、乳量が増えた」との言葉もあり、効果を実感しておられます。

当センターでは、引き続き蹄病対策を指導するとともに、生産基盤の強化に向けた農家支援を行うこととしています。



疼痛を伴い大きく腫れ上がった肢蹄



畜主と一緒に牛に合わせた治療方法を検討します